

水害への備え

① 裏面の地図(ハザードマップ)で自宅や周辺の危険度を知ろう

土砂災害の危険性あり

浸水の危険性あり

**急傾斜地
崩壊危険箇所**
1 ~ 49



▽区域図はこちら(県HP)



**土石流
危険渓流**
50 ~ 100



▽区域図はこちら(県HP)



**家屋倒壊等
氾濫想定区域**



▽区域図はこちら(県HP)
那珂川水系 濁沼川



浸水想定区域(洪水・都市下水路)

▽浸水想定水深の見方

浸水想定区域(洪水)	浸水想定水深
10.0~20.0m未満	5m以上
5.0~10.0m未満	2階まで浸水する危険あり ⇒3階以上の頑丈な建物で身を守る
3.0~5.0m未満	3m
0.5~3.0m未満	1階まで浸水する危険あり ⇒2階以上の建物で身を守る
0.5m未満	1m
	0.5m
	0.1m 床下浸水の可能性あり

▽浸水想定区域(都市下水路)

浸水想定区域(都市下水路)
0.5~1.0m未満
0.1~0.5m未満

-過去に浸水のあった箇所-
市内で内水氾濫が発生したと通報があった浸水箇所図も参考しましょう▶



- ・特に上記のエリアに自宅がある方は、状況に応じて避難を判断し、行動できるようにしておく必要があります。
- ・ハザードマップに色がついていない所にお住まいの方も、周りに比べて土地が低いか、内水氾濫の危険性があるかなどを事前に確認しておきましょう。下のページ **災害への備え** を読んで備えておきましょう。

② 避難判断のための知識をつけよう

水害は場所によって危険度が大きく異なります。**避難とは「難」を「避ける」こと**で、今いる場所が安全であれば留まる、河川の近くであれば早めに避難するなど、それぞれの状況に応じて **自ら判断し、適切な行動をとる** 必要があります。

右のページを読んで、情報の収集方法や避難する際のポイントを学んでおきましょう！ **詳しくは右ページ▶▶▶**

③ 自分に合った避難先を考えよう

自宅やその周辺は安全ですか？

在宅避難

在宅避難できるように備えておきましょう。

安全な場所に身を寄せられる親戚や知人がいますか？

親戚・知人宅に避難

親戚や知人に事前にお願ひしておきましょう。

宿泊施設(ホテルや旅館)を検討しますか？

ホテル・旅館に避難

早めに気象情報を収集し、予約しましょう。

拠点避難所(地域の集会所など)

避難所までの経路に危険がないかを事前に確認し、非常用持ち出し袋などの準備しておきましょう。



発災時の避難所開設状況はこちら

車中泊も検討を！ ※安全な場所を探し、車中泊の注意点を確認しておきましょう。

●一酸化炭素中毒

エンジンをかけたまま車中泊すると、排気ガスが車内に入り込み、一酸化炭素中毒になる恐れがあります。
→エンジンは切り、温度調節できるものを準備しておきましょう。

●エコノミー症候群

長時間同じ姿勢でいると、血行不良が起こり、血液が固まりやすくなります。
→ストレッチや定期的な運動を心がけましょう。

●脱水症状

水分を控えてしまい、脱水症状になりやすいです。
→こまめに水分補給をし、携帯トイレを車に備えておきましょう。

ペットも一緒に！



避難に対する基本的な考え方

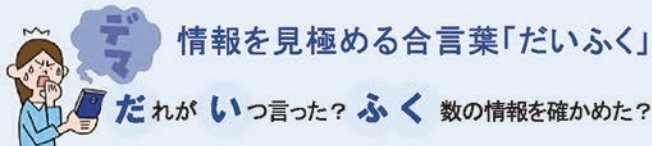
■ 気象情報をこまめに確認し、いつ避難するかは自ら判断を！

災害時、一人ひとりの状況は異なります。情報を入手し、自ら判断して適切な行動をとらなければなりません。

——情報の入手方法——

1) 情報を得る前に・・・

災害時には、実際の被害とは異なる不安をあおるような偽情報や根拠のない情報がSNSなどで流れやすくなります。巧みな義援金詐欺などにもだまされないようにしましょう。



2) 危険な場所の様子はカメラで確認！

避難するべきかを判断するために、河川や用水路など、危険な場所の様子を見に行き、犠牲になるケースが後を絶ちません。絶対に見に行かないように家族にも声をかけましょう。

■ 茨城県河川情報システム

河川の水位や雨量、河川カメラ画像をリアルタイムで確認できます。



▼ 茨城県河川情報システム



3) 気象情報を手に入れよう

災害時には、多くの情報が飛び交い、中には過度な報道もあります。気象庁などの公的機関から情報を入手しましょう。

■ 気象庁WEBサイト

予報や気象庁が発表する警報、雨雲レーダーなど、最新の気象情報を確認できます。

▼ 気象庁HP



警戒レベルと行動

市町村が発令

気象庁が発表する情報

5 すでに災害が発生！
命を守る最善の行動を

緊急安全確保

氾濫 特別警報 大雨 特別警報 土砂災害 特別警報

4 安全な場所へ避難

避難指示

氾濫 危険警報 大雨 危険警報 土砂災害 危険警報

3 安全な場所へ避難
(移動に時間を要する人)

高齢者等避難

氾濫 警報 大雨 警報 土砂災害 警報

2 避難行動の確認・・・最新の気象情報を注視

氾濫 注意報 大雨 注意報 土砂災害 注意報

1 災害への心構え・・・気象情報やハザードマップを確認

※各種情報は、1～5の順で発表されるとは限りません。気象状況が急変し、発令がされていない場合、気象情報を参考に自ら判断しましょう。

■ 状況に応じた避難行動を！

「こういう状況なら、どうする？」という各自に適した選択肢を“複数”考えておくことが、最も大切です。

天気が悪くなる前



「親戚・知人宅」などの浸水しない場所に避難

浸水が始まり大雨や強風で長距離の移動が危険



近くの高くて頑丈な建物へ立退き避難

すでに災害が発生している

「2階以上」
かつ
「斜面と反対側」



少しでも安全な場所へ垂直避難（できるだけ高いところへ避難）し、命を守る最善の行動を

避難するときのポイント

家から避難する前に



- ① 火元を確認する
(ストーブやガスなどを消す)
- ② ブレーカーを落とす
- ③ ガスの元栓を閉める



★ 自分や家族の安否確認の方法を、どのような手段で行うか話し合っておきましょう。
伝言板やSNSを活用して安否を伝えることも有効です。

✓なるべく徒歩で避難

車での避難は、冠水や渋滞により逃げ遅れに繋がります。また、緊急車両を妨げ、防災・救助活動に支障をきたします。

避難するとき

ヘルメットや帽子

持ち物はリュックに入れ両手を自由に

棒や傘を使い側溝やマンホールにはまらないよう注意

長靴は履かない



ひざ上以上の避難は**危険!**
浸水前の避難を

✓複数人で避難

周囲に声をかけ、2人以上で行動しましょう。

✓危険な場所から離れて避難

川の近くなど、危険な場所には近寄らないようにしましょう。